

特集 もっと知ろう!!!川崎市国際交流センター

(財)川崎市国際交流協会では、毎年、さまざまな語学講座や国際理解講座を開講しています。今号では、今年度5月から新設された「英語でうたおう」と「映画で英語 覚えたいあのセリフ」を担当されたイギリスご出身のハリエット・ボクスールさんと、出産のため帰国されたハリエット先生の後を引き継がれたメアリー・ノブオカさんにお話をうかがいました。

Q:ご自身のことについてお話しください。

A:英国の南ウエールズで生まれ、サイレンスターで育ちました。リーズ大学と北京で現代中国研究の学位を取り、そのとき、同じクラスで現在の夫と出会いました。



ハリエット・ボクスール先生

卒業と同時に来日し、長野県諏訪市で一年間英語を教えました。その後、イギリスに戻り、英語指導の資格を取得し、翌年、埼玉県川越市近くの私立の中高一貫校で英語を教えるために戻ってきました。当時、歌にも真剣に取り組んでいたのも、歌の先生に付きましました。その先生の後押しもあり、その後ローマへ行き、歌の勉強を続けました。フリーランスとしてプリティッシュ・カウンスルで英語を教えながら、プライベートで歌のレッスンを受け、公演の機会も何回もありました。

10年間別々の大陸で“一緒に”やってきた彼と結婚を決め、香港で一緒に暮らし始めました。香港ではミュージカルでコーラスやソロとして多くの舞台を経験し、2004年に日本に戻ってきました。

Q:お気に入りの映画や歌、好きな理由もお聞かせください。

A:「Big Fish」という映画が好きです。この映画はごく普通の状況が僅かな想像力で空想的な出来事になり、ありふれた生活が生き生きとしたものにかわり得るということを教えてくれます。クラスでこの映画を使ってとても楽しかったです。受講者が想像力を逞しく働かせて、それぞれ自作の話を考え出してくれたおかげです。

歌についてはあまりに沢山の歌が好きなので、何か特別にこれだけということはありません。しいて言うなら、音楽的に美しいもの、歌詞に特別な意味があるもの、特別な人や場所を思い出させてくれる歌、良い思い出を運んで来てくれる歌がす

新講座紹介 「英語でうたおう」「映画で英語」

A:外国文化と接するうえで一番大切なことは、何でも受け入れてみようという姿勢と、早急な判断を下さないことだと信じています。



ハリエット先生の授業風景

時に私達は、他の文化圏から来た人が、私達にとって全く相容れないと思われる方法で行動するのを見ることがありますが、彼らの文化についてももう少し学ぶことでもっと彼らを理解できるようになります。人は、より多くを学ぶようになり、我々自身の社会に関してもっと客観的になり、我々の社会が必ずしも「唯一の」、「正しい」ものではないと理解できます。



メアリー・信岡先生

Q:ご自身についてお話しください。また、好きな映画や歌についてもお願いします。

A:私はマサチューセッツ州に生まれ、中学校の時に家族とシカゴに引っ越しました。イリノイ大学卒業後、金融関係の仕事をしていましたが、1999年に英語を教えるため来日しました。1999年に日本人の夫と結婚し、現在4才になる息子と2匹の猫とくらしています。趣味は読書、料理、ガーデニング、日本語とフランス語の勉強、生け花、カラオケです。また、コンピュータにはまっています。

好きな映画も歌もたくさんあるので、ひとつに絞るのは難しいです。教材として使っている「ローマの休日」もロマンティックで大好きです、ジョニーデップの映画も大好きです。最近では息子と子ども向けの映画を見る位しか機会がないのですが...私

の中でとても記憶に残っているのは、やはりクラシック映画の「Being Ther」いう作品です。ピーター・セラーズ、シャーリー・マクレーン主演で、何事も見かけどおりとは限らないというすばらしい哲学的メッセージが含まれています。

歌については、10代の頃はビートルズマニアでした。今はいろいろな種類の音楽が好きです。カラオケではカーペンターズ、バーバラ・ストライザンド、シェリル・クロウ、アバを歌います。「津軽海峡冬景色」も練習しています。外国語の歌を歌ってみると最初は言葉がわからなくても、だんだん少しづつわかってくるのが、よいと思います。

Q:川崎市国際交流協会で講座を受け持っていかかでしたか?また、ハリエット先生の後を引き継ぐにあたり、どのような抱負をお持ちでしたか?

A:協会がこういう講座を提供するのはすばらしいことだと思います。他の言語や異文化習得の一番良い方法の一つは、好きな事や趣味を通して外国語を使い、“勉強して”上達させることです。受講者は新しい語彙の習得や聞き取りの機会を得るし、典型的な第二言語習得とは異なる自然な方法で議論することもできます。

ハリエット先生から引き継ぐにあたり、受講者の皆さんが楽しむためには、そしてより良いものになるには何が必要かを考えました。歌うことは発音の上達と、語彙習得にはとても良いと思うので、準備として基本的な発音練習をしています。(例えば、rightとlightやbeerとleer)

映画については、撮影方法にも少しふれています。映画についてより深い理解を得ることができればと考えました。教える側は受講者の言語レベルがどうであれ、どの受講者もその話題について論じる事を楽しむ力があるということをお憶えているべきです。

Q:日本での生活を通して、国際交流や異文化理解の見地からK I A Nの読者にメッセージをいただけますか?

A:日本での生活は大好きです。食事も和食だけではなく、多種多様なものがあり、どれもおいしくて新鮮だと思います。子どもが生まれて、日本は出産や子育てに親切なところだと思いました。日本人は誠実で礼儀正しく、人間関係の中にもみられる感性には感心しています。

私自身、外国に10年以上住んで、また異文化交流、理解を教えてきて、3つのアドバイスがあります。

外国語を勉強しましょう!そうすれば自国の文化と同じように他国の文化についても知ることができます。例えばもし、その国に行く機会がなくても、自分自身の経験や理解の幅が広がるでしょう。

もし、異文化を知っている人達と接して、疑問を感じたり、不快な思いをしたら、自分の国の人ではなく、その国の人に聞いてみてください。同じ文化の者同士では単なる文句になってしまいますが、そ

の国の人ならば、背景にあるものなどを説明してくれますし新しい文化により近づけて深い理解が得られると思います。私は日本のことで疑問があったりする時は夫に聞くのですが、私とは異なった視点であることもあり、その説明によって誤解がとけることもあります。

忍耐です。どんな文化であれ、理解するのは長い道のりです。それは言語でも同じです。すぐに結果がでるものではありませんが、それぞれの過程で得るものがあるでしょう。(青柳尚子・相沢明子)

担当者からひとこと

今回、この2つの講座を新設して感じたことは、テキストを使った講座とはまた違い、楽しみながら、実用的な学習ができ、いつの間にか英語力がついてくるということです。協会の語学講座は言語の修得に加えて、その言語を話す人々を知る、理解することを目的にしています。その点、歌や映画を通じて英語を学ぶのはとてもよい方法だと思います。教えてもらうという姿勢より、積極的に参加する気持ちが大切です。(何でもそうですが)

歌の好きな方、映画の好きな方には、是非お勧めの講座と言えそうです。

世界の食卓から

ギリシャ料理

—— コッキニスト ——



材料(4人分)

牛肉(ロース)	800g
オリーブオイル	100g
たまねぎ(おろす)	大1/2個
缶詰トマト(カットかホール)	400g 1缶
砂糖	小さじ1
塩、コショウ、ナツメグ	少々
にんにく(おろす)	3片
月桂樹の葉	1枚

作り方

1. 肉を5~6センチに切り、鍋に入れ、肉が水の中に完全に沈むまで水を入れる。中火で煮るときにアクをとる。アクを取ってから5分間煮る。(この方法でアクを取るか、別の方法としては、オリーブオイルで肉を炒める)
2. オリーブオイルとたまねぎを入れて更に10分間煮る。
3. トマト、にんにく、砂糖、月桂樹、コショウ、ナツメグを入れて弱火で30分間煮る。時々様子を見ながら肉が軟らかくなるまで煮込む。
4. 材料が軟らかくなったら出来上がり。